



伝統と想いを次代へと繋ぐ晩香廬の補修復原工事 (公財) 渋沢栄一記念財団渋沢史料館／左官施工：吉村興業(株)

東京・北区の飛鳥山公園は、新一万円札の肖像にも選ばれ話題となっている渋沢栄一の邸宅があった場所だ。その一角に栄一が国内外の賓客を迎えて歓談を交えながら交流した建物が残っている。現在の清水建設(株)から栄一の喜寿のお祝いとして贈られた晩香廬である。

建物は大正6(1917)年に竣工。2005年には国の重要文化財にも指定されている。今回、この晩香廬の外壁補修復原工事が行われた。左官工事を担当したのは技術にこだわり数多くの文化財で実績を残す吉村興業(株)。本稿では、(公財)渋沢栄一記念財団渋沢史料館の川上恵副館長より補修復原工事の経緯のほか、吉村興業(株)代表取締役社長の吉村誠氏に左官施工のポイントなど話を伺った。
(編集部)

想いを今に伝える建物

——晩香廬について教えてください

川上：晩香廬は、渋沢栄一と清水建設との関係性を最も窺い知ることのできる建物ではないかと思います。清水建設は飛鳥山にあった渋沢邸の建物の施工を行っていますが、そこで賓客を接待する舞台装置を意識して、建物だけでは



▲チリすきを防ぎ壁の剛性を増すため布連とチリトンボを施工する